

外気導入装置の活用がいちご育苗期におけるハウス内温度及び生育へ及ぼす影響

要約

外気導入装置の導入により最大 8.6℃のハウス内気温の低下が見られ、日中の昇温抑制効果が得られた。また、定植時の花芽分化は、やや早まることが示唆された。導入コストも低く、新たな昇温抑制装置としての普及が期待される。

○ 展示のねらい

近年、猛暑の影響により、育苗期における炭疽病の多発や花芽分化の遅れ等、生産に大きな影響が及んでいる。そこで、外気導入装置を用いた新たなハウスの昇温抑制技術を検討する。

展示内容

供試区	遮光資材（30%）＋アウトサイダー（（株）誠和アグリカルチャ）
対照区	遮光資材（30%）

※ハウス面積は両区とも 3 a（間口 6 m×奥行き 50m）

※アウトサイダーは、昼夜を問わず 24 時間稼働とした。稼働期間 7 月 10 日～9 月 15 日

○ 主な成果



図 1 アウトサイダー設置の様子

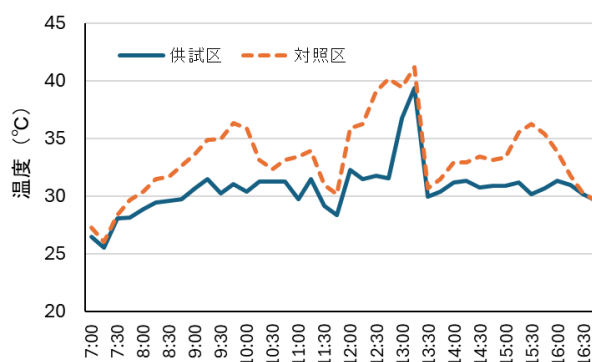


図 2 2025/8/25 の日中の気温の推移

表 1 定植時の苗質（各区 3 株調査。花芽ステージは未分化を 0、花を 7 とした 8 段階で評価）

	草丈	クラウン径	内生葉数	花芽ステージ
供試区	21.0cm	7.9mm	4.3枚	3.3
対照区	22.0cm	8.3mm	4.3枚	1.3

- ・供試した奥行き 50mのハウスでは、ハウス内の温度むらはみられなかった。
- ・稼働期間を通じて、夜温の低下はみられなかったが、日中の温度低下がみられた。外気温が高かった 8 月 25 日においては、対照区に対し最大 8.6℃の低下がみられた。
- ・花芽ステージが供試区でやや進んでいたが、草丈等には大きな差はみられなかった。

○ 今後の方向性

- ・循環扇を設置していないハウスにおいて導入が見込まれるが、昇温抑制効果を高めるためには遮光資材や遮光塗料との併用が必須である。
- ・ハウスサイドからかん水を行う場合、ダクトの設置位置によってかん水が行き渡らないことがあるため、注意が必要である。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 TEL 0287-43-2318 実施場所：さくら市
 問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315